

5.4 地域の背景やシンボルとなる緑を保全設定する（景観構成系統）

日常的に意識することなく視野に入り、潤いと安らぎを与える緑や市街地の背後を形成する景観的に重要な緑、地域のシンボル・鎮守の森としての社寺の緑、人の視線を受け止める緑や視線を誘導する街路樹など地域の景観構成上重要な公園・緑地の配置検討を行うものであり、下記のような方針のもとに行います。

- ◆地域の景観形成の骨格となっている市街地背後の山地や河川の保全・活用を行う。
- ◆地域のシンボルとなっている緑地や地域と一緒にとなった緑地の保全ならびに地域の景観向上に寄与する緑地を配置する。
- ◆地域の景観形成、景観向上に役立つ公園緑地の配置、修景・緑化を促進する。
- ◆四国西予ジオパーク構想を踏まえ、特徴的な地形・地質や昔と変わらない原風景を提供する緑の保全・活用を図る。

○西予都市計画区域（三瓶地区）（P35 参照）

- ・地域の背景やシンボルとなる緑地として、特徴的な景観となっている三瓶公園、国造神社の樹林地、市街地周辺にあり農用地として指定されている果樹園や段々畠ならびに地域の景観の軸である朝立川などの河川を位置づけます。
- ・三瓶地域の特徴的な景観である三瓶湾を眺める景観ポイントとなる緑地の配置・確保を図ります。（塩浜緑地、三瓶公園など）
- ・身近な生活環境の修景・景観形成の拠点として、公園緑地を位置づけます。

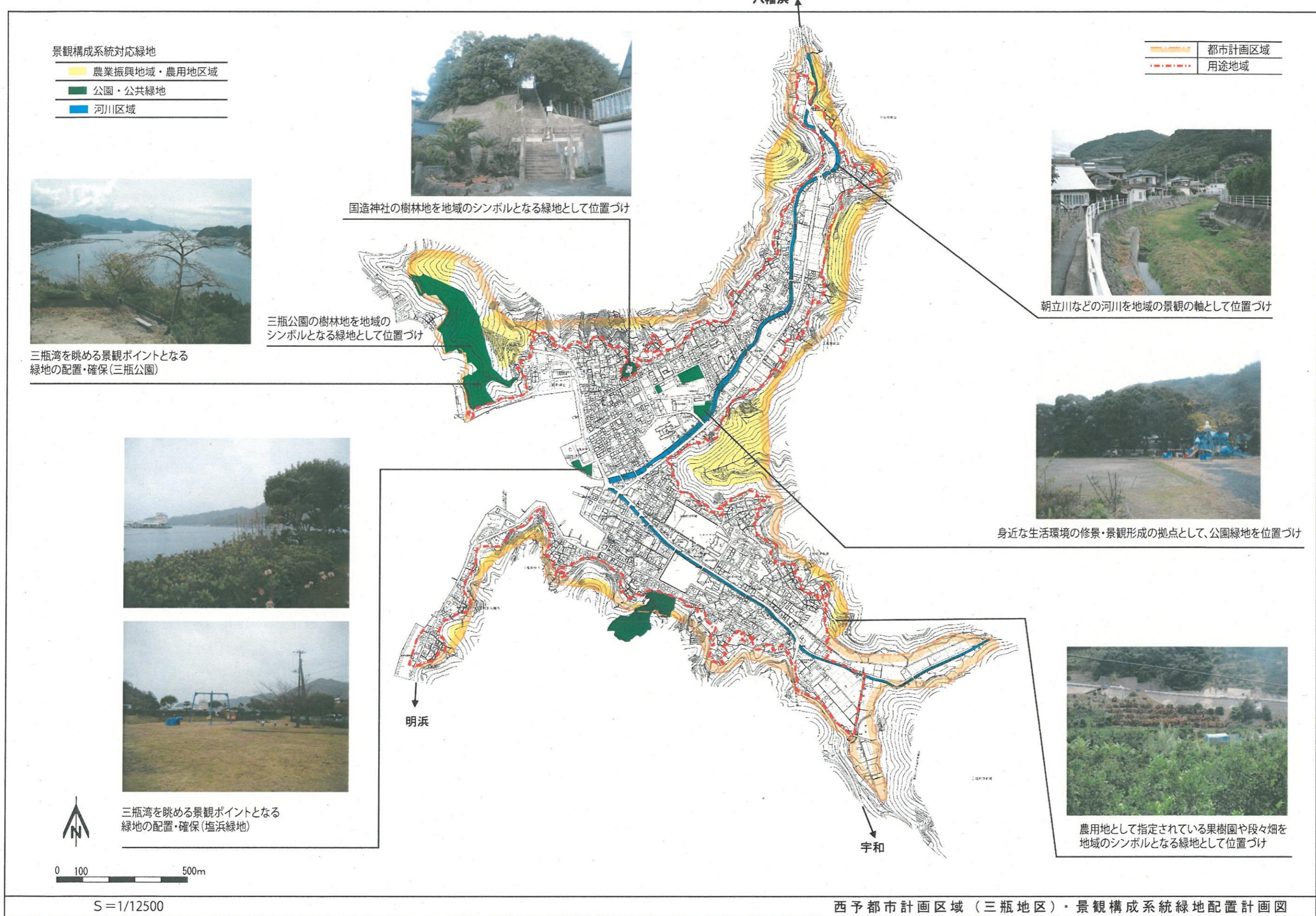
○西予都市計画区域（宇和地区）（P36, P37 参照）

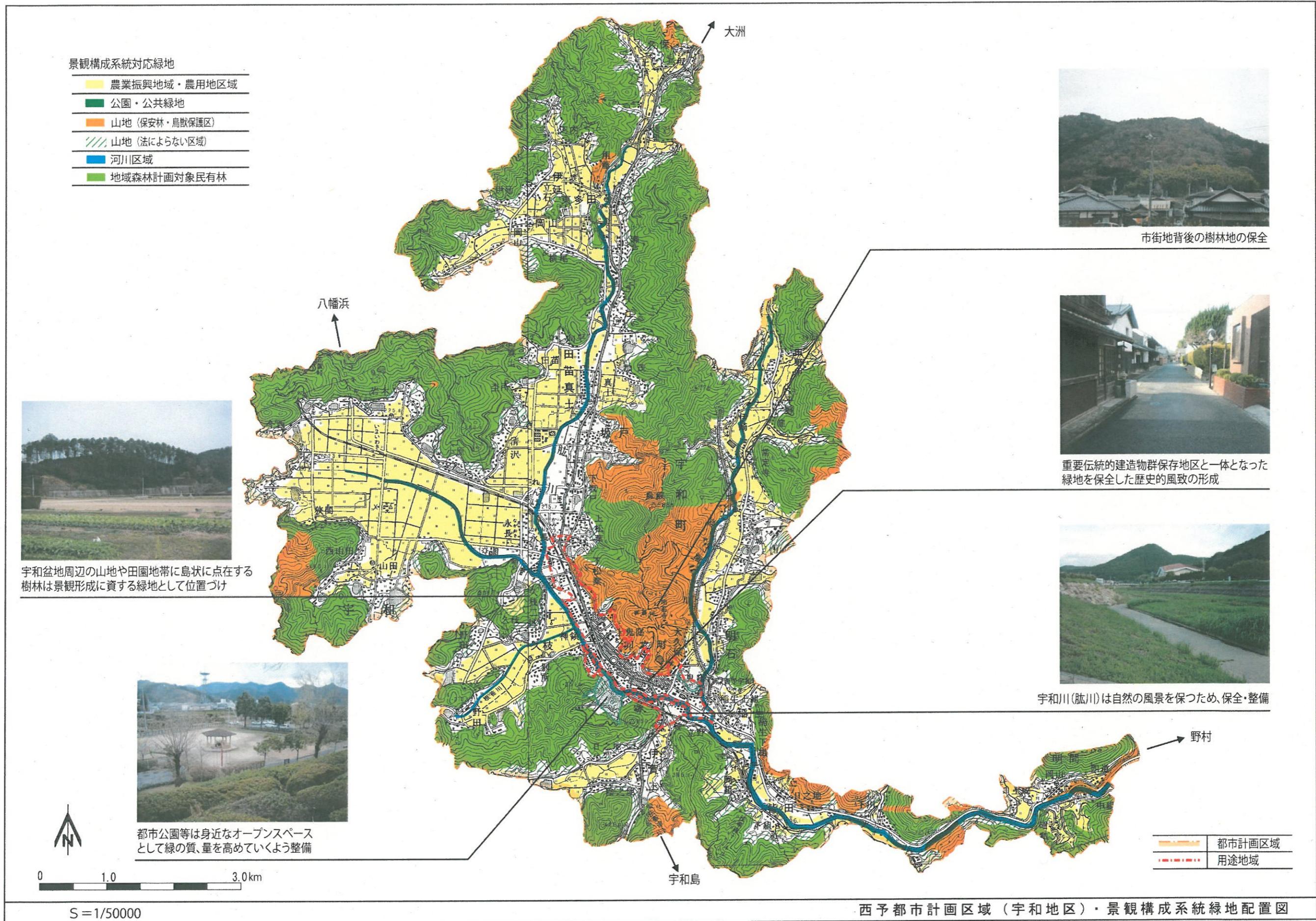
- ・市街地背後の樹林地は、歴史的、文化的風土を形成しているとともに、市街地からの良好な景観を有していることから、保全を図ります。
- ・重要伝統的建造物群保存地区に指定されている卯之町は本市のシンボルともいえる景観上重要な地域の一つであることから、重要伝統的建造物群保存地区と一緒にとなった緑地を保全し、歴史的風致の形成を図ります。
- ・宇和盆地周辺の山地や田園地帯に島状に点在する樹林は故郷の田園景観の構成要素として重要な役割を果たしていることから、景観形成に資する緑地として位置づけます。

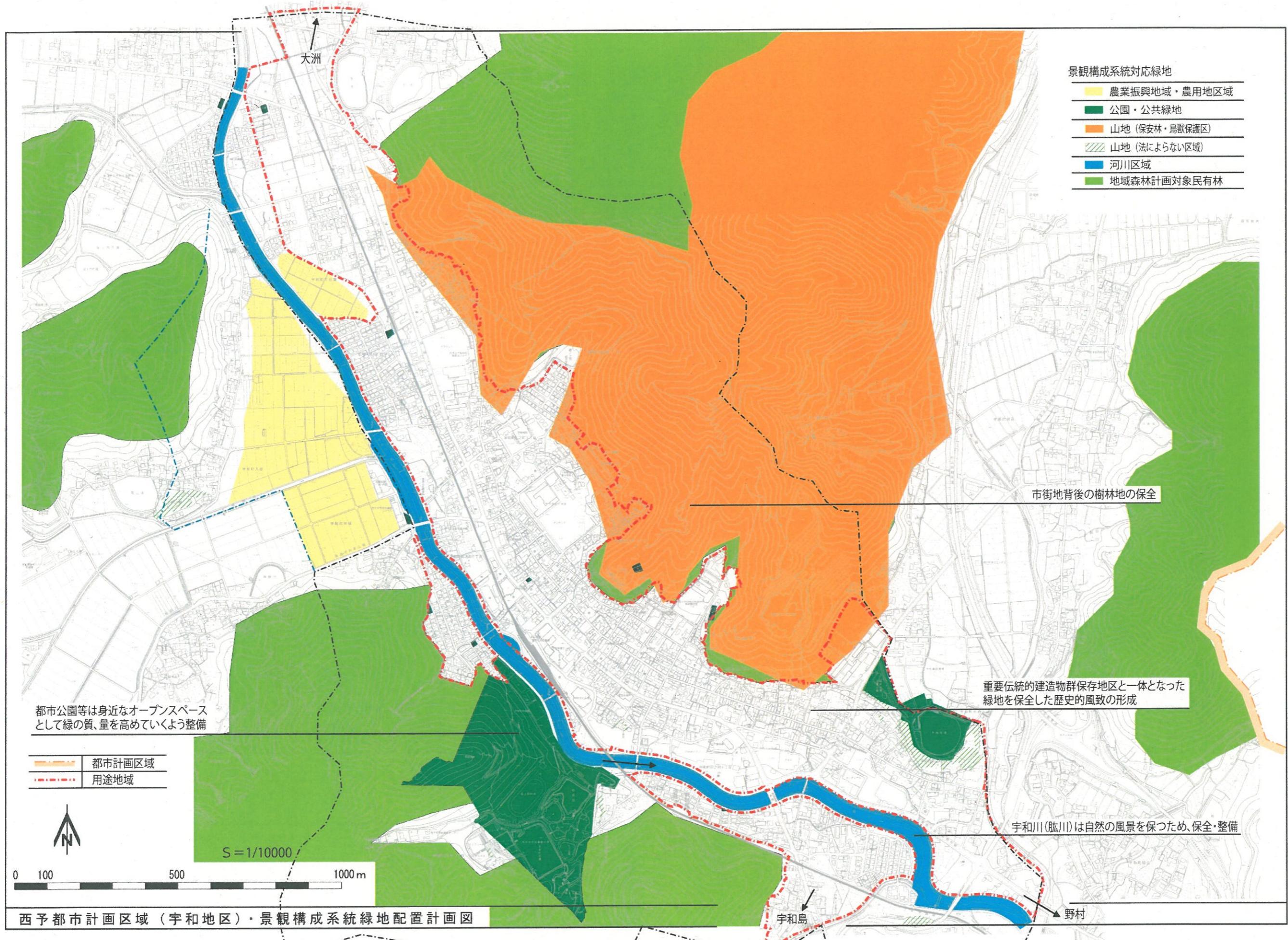
- ・市街地に沿って流れる宇和川（肱川）は良好な水辺地を有しており、自然の風景を保つため、その保全、整備を図ります。
- ・都市公園等は身近なオープンスペースとして景観的価値が高く、緑の質、量を高めていくよう整備を図ります。

○西予都市計画区域（野村地区）（P38 参照）

- ・肱川右岸沿いに階段状の地形となっている斜面の樹林地は、野村地区の地形特性を表わすとともに、良好な景観要素であることからその保全を図ります。
- ・肱川は野村地区の都市計画区域を貫いて流れしており、地区の骨格となる景観要素であることから、その保全を図ります。
- ・愛宕山公園は、国道441号線のカーブ地点に位置し、通行者の目に留まる緑地となっていることから、良好な景観を構成する緑地として位置づけます。





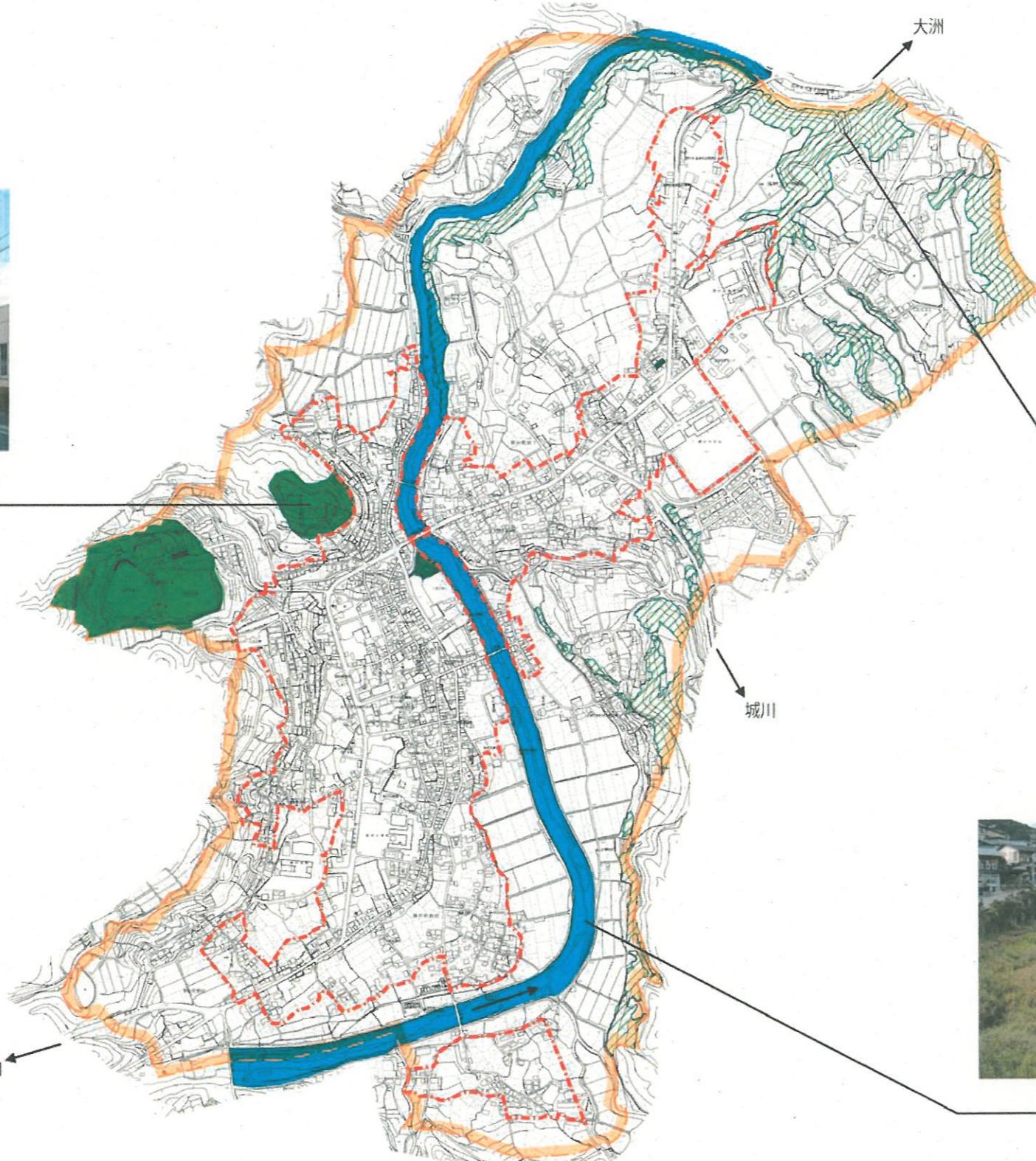


景観構成系統対応緑地

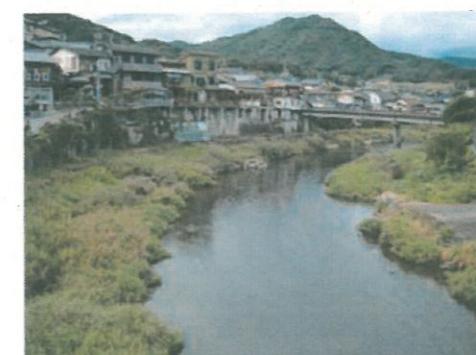
- 公園・公共緑地
- 河川区域
- 段丘斜面樹林地



愛宕山公園は、良好な景観を構成する緑地として位置づけ



肱川右岸沿いに階段状の地形となっている斜面の樹林地の保全



肱川の河川景観保全



0 100 500m

S=1/12500

西予都市計画区域（野村地区）・景観構成系統緑地配置計画図

■	都市計画区域
■	用途地域